

第3回 ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会 議事要旨

【日時】平成29年11月8日(水)10:00~12:00

【場所】厚別区役所2階B会議室

【委員】11名

所属/肩書	氏名(敬称略)
あつべつ区民協議会代表 (札幌市子ども会育成連合会厚別区支部長)	田中 昭夫
あつべつ区民協議会運営委員長・厚別のにぎわい検討委員会委員 (北星学園大学 経済学部教授)	鈴木 克典
厚別区ふれあい推進会会長 (厚別南町内会連合会会長)	牧野 弘志
厚別区庁内連合会連絡協議会会長 (厚別中央町内会連合会会長)	樋田 並久
札幌市青少年科学館管理課長	鑓水 憲一
(株)札幌副都心開発公社 取締役総務部長兼財務企画部担当部長	川尻 寿彦
厚別中央地区 子育てサロンぴーちくパーク代表	西根 由美子
厚別南地区 子育てサロンぼろキッズ代表	木村 和香枝
新さっぽろ冬まつり企画会議代表/あつこい実行委員会委員 区民まつりへのご協力(厚別南町連)	波多野 達郎
北星学園大学 経営学部経営情報学科4年	片山 由貴
北星学園大学 経営学部経営情報学科4年	村上 舞
事務局	
厚別区市民部総務企画課長	國島 徹
厚別区市民部地域振興課長	綿貫 真人
厚別区土木部維持管理課長	桑島 健

【議事・進行】

1. 第2回あり方検討委員会の振り返りについて

- 事務局より、資料1に基づき議事録の内容を説明

2. ふれあい広場・科学館公園の望ましいあり方/再整備のテーマ

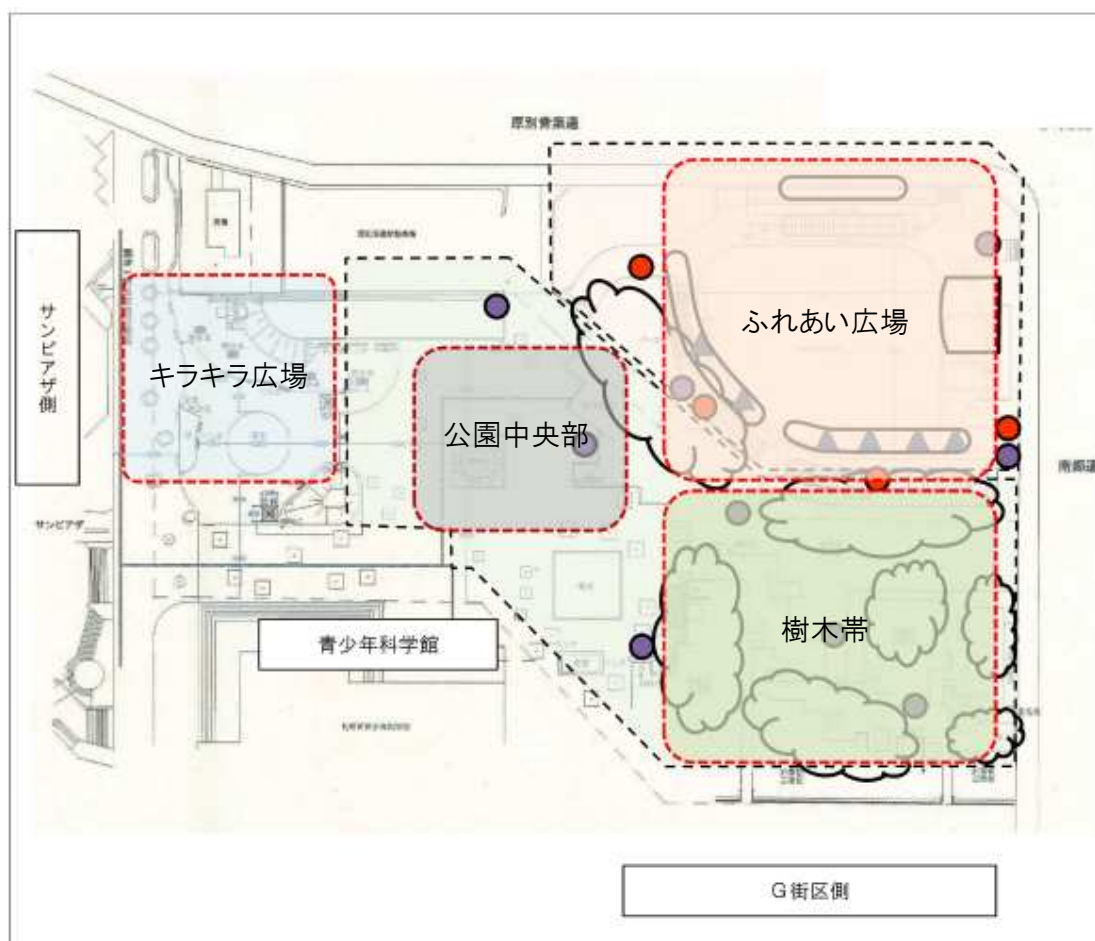
- 事務局より、資料2に基づき、第2回あり方検討委員会における意見のまとめ及び導き出された再整備のテーマ等について説明

3. 再整備内容の検討に向けて

- 事務局より、資料3-1~3に基づき、これまでのあり方検討委員会では出された再整備に関する意見、また確認された課題等について説明。
- 委員長より、「にぎわい検討委員会」委員として資料4を説明。

4. 具体的な再整備内容に関する意見交換

(参考：以下の検討委員会委員の発言における各エリアの呼称と場所)



意見交換の記録

【ゾーニングに関する意見交換】

■ 全体に関する意見

- 全体的なゾーニングの考え方及び方向性については、資料 3-1 のイメージで良い。再整備内容を考えるうえでゾーニングは重要。
- 広場・公園全体を5つくらいにゾーニングするようなイメージで良いのではないか。資料の方向性については基本的に良いと思うが、広場と公園の一体感の強化も意識することを忘れずにゾーニングを検討したい。

■ キラキラ広場周辺に関する意見

- すでにキラキラ広場ではたくさん子ども達が遊んでいることから、そのスペースを少し中央よりに広げて、子どもの遊び場を増やし、特性を強化してはどうか。

■ 公園中央部周辺に関する意見

- 科学館前に遊具などを置いて、子どもたちが集う場所にするのも良い。

■ 樹木帯周辺に関する意見

- G 街区を意識した整備をすべき。今後、若い人が集まることも考え、科学館駐車場に面する樹木帯をしっかりと整理し、有効な空間とすべき。
- にぎわい検討委員会では、樹木帯の部分をきれいに整理した上で、そこに遊具を置くなどして、人が集まるような場を作ること意識した。広場と地下鉄出入口の間、また広場と樹木帯の間は、高低差（でこぼこ）により広場と公園の動線的なつながりや視認性が阻害されていることから、それらを解消することで、ゆとりやにぎわいも含め、新たな利用価値のあるスペースになるのではないか。
- 樹木帯の整理及び高低差の解消は、広場と公園の一体感を強化するために必要で、樹木帯にきれいな空間を整備することと併せて必要であると考え。そうすれば、ふれあい広場内のパーゴラ（屋根がついている部分）の中にベンチを置き、そこから遊ぶ子ども達を見られるなど、日常的なにぎわいも生まれる。ゆとりと憩いのゾーンをどこに設けるべきかについて、子どもや若者がくつろぐことも踏まえ、樹木帯の部分をどのように整備していくべきかを検討する必要がある。

■ 動線関係

- 公園中央部分は動線が交わり中心的な部分になると思う。そうであれば、多くの人が行き交うところであるため、科学館前は子どもが遊ぶ場所としてはあまりふさわしくないのではと感じる。
- G 街区方面にも動線を整備する場合は、子どもや高齢者の横断可能性も踏まえ、可能な限り安心安全を確保すべき。

【整備内容に関する意見交換】

■ 樹木帯周辺に関する意見

（視認性の確保に関する意見）

- 老木は撤去してそれ以外は残すとのことだが、木はたくさんあるため、視認性をもっと重視して広場・公園を一体的に考えるべきである。
- 整備する上で重要な事柄の一つが木の整理。視認性がなく、広場のにぎわい感が周囲に波及しきらない。ある程度間引いて、見やすくすることが重要。地下鉄1番出入口付近の樹木を撤去するだけでも大きく印象が変わる。
- 南郷通から見ても木が邪魔して中に何があるかわからないとお客さんからよく言われる。針葉樹が多く、冬も見通しが悪いので、ある程度整備する必要がある。
- 樹木帯部分が明るい空間となり、ふれあい広場側・公園側との視認性がしっかりと確保されるようになることが大切だと思う。

（新たな空間創出に関する意見）

- 樹木を全部撤去し、自由に使える空間をつくることで汎用性<様々な場面で幅広く活用できる>が高まると思う。広場と公園の一体感を考えると、全撤去は必要なのではないのか。

（伐採・撤去を考える際の配慮に関する意見）

- スペースを確保するために一定の伐採は必要と考えているが、まずは、樹木整理に関しては、基本的には樹間が狭くて弱っているものを適切に整理することが重要と考えている。一方で、緑の保全の観点から、現在の樹木を生かすということ併せて総合的に検討する必要がある。（事務局）
- 樹木を伐採することが目的ではなく、暗いイメージの改善やスペース・視認性の確保が目的であったと思う。そこを達成するためにはどんな手法が適切かを意識することが大切。
- 樹木については、少し老木や樹間が狭いものを考慮しつつ、全撤去までいなくても、ちょっとした工夫で視認性を確保していくと良いのではないのか。
- 緑が欲しい時には植木鉢はすぐ置ける。しかし、後から木を切りたいということがあってもなかなかお金がつかないということもある。この機を逃すことなく大胆にやらなければ意味がない。
- 伐採後の木の根を全て抜根するのはかなり大変ではないか。その後の使い方を工夫するなど、特徴としても利用できるのではないのか。

（その他）

- 今の樹木帯の部分を交流スペースに特化し、市民管理スペースなどにしてはどうか。樹木帯側にコミュニティガーデンの要素があってもいいのでは。

（トイレ周辺）

- 現状のトイレは、暗く評判がよくない。既存のものを活用するにしても、使い勝手が良く使いたくなるような整備が必要である。視認性の確保が大切。
- トイレも南郷通側にあるが、見通しが良くなれば利用しやすくなるのではないのか。
- 今のトイレが狭いため、基数を増やす整備も良いのではないのか。
- 既存のトイレが設置から20年も経っておらず、現在のものを撤去して新設することは難しいかと思う。約35年での更新が目安。また、トイレの新設には約2,000万円以上かかることも見込まれる。将来的に既存のものが老朽化した時には、適切な場所への新設も踏まえて検討していきたい。（事務局）
- 小さな子ども達でにぎわうことを意識するならば、キラキラ広場側にトイレを新設することはか

なり優先順位が高いと考えていた。ただ、予算を考えると、既存のトイレについて利用しやすい環境を整えるなど、別の工夫ができないかとも思う。

- 広場においてより活発にイベントを行っていくことを考えると、将来的にはトイレはもう一つあった方がいいのではないか。
- 当面は、今のトイレを使っただけのように周辺整備等に努めたい。(事務局)
- サンピアザのトイレについても、積極的にご利用いただいて構わない。
- トイレに関しては、G・I 街区も整備されるし、サンピアザなどの周辺施設のトイレを利用することもできる。一旦は他の整備に重きを置くべきかと思う。

■ ふれあい広場

(ステージ地下部分に関する意見)

- ステージ横に備品庫を併設することについては、スペースが必要となり、また管理の問題もあることから、地下倉庫の有効活用に重点をおいて考えたい。地下からの備品出し入れに苦慮している実態を踏まえ、入口部分の拡充やバリアフリーなども踏まえて検討するべきか考える。(事務局)
- ステージに向かって左側の出入り口を中心に使っている。右側の出入り口を使いやすく整備することで利便性が向上するのではないか。

(パーゴラに関する意見)

- パーゴラ(屋根付きスペース)については、資料4にあるとおりの撤去では200万円以上、資料4にあるとおりの移設(新設)では1,000万円以上かかることが予想される。費用対効果の面で説明の難しさも感じる。(事務局)
- 現在行われているイベント等においても非常に重宝されている施設。容量を減らすことは考えづらい。

(敷地面に関する意見)

- 広場と地下鉄出入口の間が丘になっていることから、それを平地化することにより、視認性が向上し、かつ使い勝手が非常に良くなるのではないか。
- 公園利用の仕方として、ボールを蹴ってはいけないなど、小中学生の居場所が非常に制約されている。小さい子はキラキラ広場があってもいいが、もう少し上の子たちが集まれる場所も検討してほしい。

■ 公園中央部

(青少年科学館について)

- 青少年科学館も一体的に整備すべきと思うがいかがか。
- 青少年科学館は札幌市教育委員会の施設であるため、もし整備をするなら教育委員会の検討も必要となる。
- 科学館の駐車場もどうにかして整備する必要があると思う。どこかに移すと、科学館公園・広場・G街区が一体になった形ができると思う。

(モニュメントについて)

- モニュメントに関しては、再整備の効果を最大限にする上で撤去が必要であれば、それも含めて検討する必要があると考えている。(事務局)

■ キラキラ広場

(安全性等について)

- ・ 交番はあるが、キラキラ広場から交番は見えない。交番の裏側に窓をつけるなど、警察の目が広場に届くような工夫をしてはどうか。
- ・ 子どもの遊び場スペースを広げて、子どものにぎわいという特性を伸ばすべき。

■ ふれあい広場・科学館公園全体

(遊具について)

- ・ エア遊具については、さっぽろさとらんどに比較的小さなものがある。毎日空気を抜かなくてはいけないなど、管理面で難しさがある。(事務局)
- ・ 樹木帯の部分は子どもの遊具ではなく、高齢者の遊具(健康遊具)などを置いてあげると、見通しが良くなり見守り手もいるようになるので、子どもの安全性も高まるのではないかと。
- ・ 小中学生の利用についても、小さい子どもと少し分けた場所で考えてあげるといい。バスケットボールゴールがあって、3on3などができると遊べるようになるのではないかと。
- ・ 施設がなくても、小中学生は走れる場所があれば楽しいと思う。健康遊具については懸垂などをして子どもも使っているのだから、みんなで使えるのではないかと。
- ・ 市の方から遊具の例としてちょうどの良いものを例示してほしい。
- ・ 遊具を置くときは教育委員会などと相談して検討してほしい。何か事故があって撤去されるのではなく、安心安全にずっと使えるものを設置してほしい。

(遊歩道について)

- ・ 目的を持って歩けるような、距離などを示した遊歩道というアイデアはいいと思う。また、歩行空間をしっかりと示すことで、公園の中央を自転車が横断していくなどは回避できるのではないかと。自転車で来ている人もたくさんいる。
- ・ 遊歩道はあってもいい。近場であれば人は来るのではないかと。
- ・ 公園の中もそうだが、サンピアザやG街区など、周辺も含めて「ここまで何キロ」など距離を示してあげるのもいいのではないかと。
- ・ 高齢者の意見を聞くと、多少の凹凸でも非常に歩きづらいとの意見がある。遊歩道のように、平坦で歩きやすい道を作ることは貴重だと思う。

(ベンチ・テーブルについて)

- ・ 高齢者の意見を聞くと、ベンチの真ん中や両側に手すりがあると楽だと言っていた。
- ・ ベンチを置くのであれば、幅広のベンチで両側から座れるものにするのと、高齢者やみまもりの父母等も利用しやすいのではないかと。
- ・ G街区の学生については、学校施設自体が新しいのであまりランチ利用は期待できないかもしれないが、ベンチやテーブルなどがあればニーズはあるかもしれない。ただ、重視すべきことではないと思う。

(学生利用の促進について)

- ・ 学生のダンスサークルなどは大通公園などで練習しているため、そのように使われる可能性はあるのではないかと。
- ・ 鏡などがあることによって、さらにそのような利用可能性は高まるかもしれない。
- ・ 学生が広場に行って遊ぶということはないと思う。物理的なつながりを整備するだけでなく、そ

の後の学生利用などを総合的に検討するべき。

■ その他

(災害対策について)

- 広場・公園の周辺については、大規模な商業施設や宿泊施設があり、G・I 街区において今後さらに機能が充実していくことが予想される。そのため、広場・公園周辺には避難者が一時的又は一定期間滞在するような機能は相当程度充実していることを考えると、広場・公園には、救助隊等の集合場所や物資の運び込みなど、敷地・空間として活用できることが求められているのではないかと思う。(事務局)

(情報発信について)

- サンピアザ側からふれあい広場ステージで何をやっているかが見えるような視認性の高さ、また商業施設内のデジタルサイネージを活用したイベントの告知を行うなどの広報上の工夫を行い、認知度を高めていく必要がある。

■ 最後に：事務局

- 次回以降、今日までにお寄せいただいた意見を参考にさせていただきながら、再整備の方向性をまとめ上げたい。
- 次回の検討委員会は、2月上旬頃に開催させていただきたい。

以上